

## 映画とキリスト教

### <プロジェクトメンバー>

加納 和寛（代表、センター副長、神学部准教授）

打樋 啓史（センター長、社会学部教授）

大宮 有博（主任研究員、法学部教授）

橋本 祐樹（主任研究員、神学部助教）

平林 孝裕（国際学部教授）

2017-18年度にRCCではプロジェクト「ポップカルチャーとキリスト教」が遂行され、その中でキリスト教をモチーフとした映画が何度か取り上げられた。

RCCでは以前より現代映画におけるキリスト教的背景への考察がしばしば研究対象となっていたが、映画に焦点を絞ったプロジェクトは行われていなかったため、これまでの流れを集大成すべく、2019年度より「映画とキリスト教」プロジェクトを開始することとなった。

言うまでもなく、キリスト教をモチーフとする映画は無数に製作され続けている。欧米では既存のキリスト教会が衰退の兆しを顕わにし、人々の生活からキリスト教的要素が薄れつつあると感じる向きも強くある一方で、キリスト教を正面から取り上げた映画が今なお数多く見られるのは決して当たり前ではなく、むしろ興味深いことであるといえる。また、キリスト教を強く批判あるいは揶揄する映画も多くみられるが、これらはむしろ教会から離れているにもかかわらず人々がキリスト教には（賛否はともかく）関心を持ち続けていることの表れと理解することもできる。

一方で、こうした映画に表現されているキリスト教のモチーフを読み解くことは、時に専門的な知識を必要とすることが、これまでのプロジェクトにおける研究発表等を通じて共有された。特にキリスト教に馴染みがあるわけではない人々にとっては、映画の中に巧みに織り込まれた高度な神学的命題を正確に読み解くのは困難を極める。その一方で、キリスト教の視点から、キリスト教がモチーフの映画を丁

寧に解説しているカタログ本の類は現在のところほとんど見当たらない。そこで本プロジェクトは、キリスト教の専門家が数多く集まっている関西学院の特色を活かし、キリスト教の視点からさまざまな映画を読み解き、その成果をRCC開設25年にあたる2022年度に公刊することを目標とする。

まず、すでにRCCが所蔵しているキリスト教に関する映画資料を整理し、主として1990年代以降のものを中心に100作品あまりを選定し、映画リストを作成した。1990年前後に旧ソ連の解体などによる東西冷戦秩序の崩壊が、人々の終末意識の変革に大きな影響を与えたため、終末的なイメージの強い映画作品群はこの年代を境として大きく変化しているからである。また、それ以前の古典的ともいえるキリスト教的映画については、既刊のキリスト教映画解説本で詳しく取り扱われているので、改めて取り上げる必要性は少ないと判断した。

次に、キリスト教の専門家の視点からこれらの映画を解説することのできる執筆候補者を選び、プロジェクトの趣旨へ理解と協力を要請した。プロジェクト趣旨に賛同した執筆候補者には、映画リスト内のどの作品が解説可能かを打診し、各自の執筆作品を決定していった。2019年12月に全執筆候補者との交渉が終了し、以下の通り概要が定まった。

#### 『映画とキリスト教』（仮題）

- ・掲載作品数：113作品
- ・1作品あたり2,500字程度の解説文を予定
- ・執筆者：33名（関西学院内の教員20名、学院外〔卒業生等〕13名）
- ・原稿締切：2020年9月30日

本プロジェクトは2022年度に書籍の刊行を目指しているため、今期（2019-2020年度）に続いて時期（2021-2022年度）も継続することを予定している。その間、特にキリスト教的に重要な意義のある映画の上映会、映画監督等の講演会などを行うことを企図している。

（加納 和寛・プロジェクト代表）